

孫ゼミ杭州ゼミ合宿特集

ライブ販売、美食と杭州

2024年孫ゼミ合宿の感想

外国語学部 中国語学科 孫安石ゼミナール

人文学研究科 中国言語文化専攻博士前期1年 黄亢元

2024年の合宿は9月5日から9月10日まで杭州で開催された。「浙江旅游学院」の先生や学生たちとともに、忘れられない5日間を過ごした。私たちは「杭州四季青服装市場」や杭州「文広グループ」などを訪れ、科学技術やインターネットの発展を見学した。また、杭州のビールや海鮮、その他の美味しい料理を味わい、食文化の豊かさを体感した。「南宋御街」を散歩し、杭州の美しい夜景をたのしんだ。この文章を書いてみると、あの忘れられない5日間が鮮明に蘇ってくる。

今回の合宿で最も衝撃を受けたのは、杭州のライブ販売業界の発展である。最初に訪



「無憂メディア」社の娯楽施設

れた「無憂メディア」社では、初めてライブ配信基地に入り、配信者の仕事環境を間近で観察し、具体的な仕事の流れを理解した。「無憂メディア」社の所在地は特に目立つわけではないが、ライブ配信が通常夜に行われるため、午前11時半頃でも出勤している人は少なかった。会社内部には、カラオケ、ゲームセンター、ジムなどの娯楽施設が整備されており、社員がそれらを利用して歩いていた。社内を歩いているのは若者ばかりで、年配の社員はほとんど見かけなかった。

このようにリラックスした雰囲気は、夕方にライブ配信が始まると変わった。次に訪れた抖音のライブ販売基地では、どこも忙しい雰囲気に包ま



「無憂メディア」社の配信者およびそのチームのライブ配信ルーム

れていた。各ブースからは、配信者が感情を込めた声で話すのが聞こえ、後ろのアシスタントは次々と商品を渡し、ひたすら何かを書き留め、遠くにはコンピュータ機器を担当する人も見られた。スタッフによれば、この小さなブースで女性

服を販売している配信者と彼女の4人のチームは、一晩で最大35億円の売り上げを達成することができそうである。

繁栄するライブ販売の裏には、供給基地と物流の支援が欠かせない。特に、利益が最も高く競争が激しい女性服のライブ配信分野では、配信者は様々な種類のサンプルを試着し販売する必要がある。私たちが訪れた「杭州四季青服装市場」では、どこでも女性服が梱包され、出荷を待つ光景が見られた。面白いのは、市場の店主たちがライブ販売の従事者には一定の割引を提供することである。



抖音のライブ販売基地で仕事中の配信者とそのチームの写真

る。もし同じ割引を享受したいなら、自分もライブ配信業者のように装う必要がある。つまり、市場が開く早朝に他の配信業者と同じように買い付けに来ることが条件となるのである。

杭州に到着した初日の夜、私たちはさつそく杭州の火鍋を味わった。肉が新鮮で香りが立ち、とても美味しかった。その後、杭幫料理や杭州のラーメンもそれぞれ体験した。「叫花鶏」という有名な料理を食べた際は、手袋をつけて焼き上がった鶏肉を手で裂くという、独特な体験である。

最も印象に残っているのは、地元で非常に有名な店である。店はあまり大きくないが、街角のありこちで見かけるので、地元の人々に愛されていることがわかる。私は小籠包、焼き餃子、牛肉入り春雨を注文した。焼き餃子は肉汁たっぷり、油分は多いものの柔らかかった。最後に牛肉春雨を食べ終わると、体がポカポカと温まり、それが私にとって最も忘れられない美味しさである。



小籠包、焼き餃子、牛肉入り春雨スープ

最初、同行していた日本の学生たちが「CHAGEE」というお茶がとても美味しいと言っているのをよく耳にした。彼らに尋ねてみると、それが中国のミルクティー店「霸王茶姬」のことだと知った。このお店のミルクティーは美味しく、日本の学生たちにも意外と人気がある。私も何杯か飲んでみて気づいたのは、中国の他のミルクティー店では甘めに作られることが多いが、「霸王茶姬」のミルクティーは甘さが控えめで、お茶の風味が強いため、日本の学生たちに好まれているということである。

最終日には、私たちは「浙江旅游学院」を訪れ、教師や学生の案内のもと、彼らのキャンパスを見学した。学校内の風景は美しく、湖畔や小橋、木陰にはのかに見える校舎を歩いた。この学院の「実習」に対する姿勢は印象的で、環境を整え、学生が実際にスキルを磨くことを奨励している。例えば、学校には学生がライブ販売を試せるスタジオがあり、料理の技術を磨くためのキッチンも備えられている。旅の間、学院の教師や学生たちが常にガイドをしてくださり、私たちの質問にも答えてくれた。彼らのおかげで、私たちは忘れられない旅を過ごすことができた。

中国



杭州



夏朵咖啡

マスターの趣味が詰まった個性ある空間が特徴。メニューは中国発祥の冰粉(ゼリー状デザート)をはじめとするティー、フローストドリンク、デザートと種類豊富でした! チェーン店とは違い席数には限りあるものの、充電器・Wi-Fi設備と作業にも適した落ち着いた空間でありました!

※席にてQRコードより注文、決済



無羈派

マスターが厳選したこだわりのコーヒー豆を注文が入ってから焙煎し、提供するのが特徴。コーヒー豆の販売も行っていました。またインテリアにもこだわりが!特に印象的だったのは、右の写真にもある通り2Fのライトのデザインが他では見ることのない書道作品を利用したものでした。壁にも書道作品があり現代的なおしゃれな空間でありながらも中国文化を楽しめるカフェでありました!

※レジにて注文、QRコード決済



日本大好きな優しいマスターでした



UP-UP 咖啡

1Fがアクセサリなどを取り扱う雑貨スペースになっており、2Fがカフェスペースとなっています。近日中に2Fにも雑貨スペースを拡大予定とのことでした。このカフェ最大のこだわりはオーダーが入ってから焙煎して頂けるコーヒーと共に楽しめる中国の伝統的な絵ではないでしょうか。



寒烟咖啡

この通りにあるお店の中でも大きめなカフェとなっており、席数、客数ともに多かった印象です。このカフェ最大の特徴は圧倒的なメニューの大きさではないでしょうか!老若男女問わず利用されており、他のカフェとの大きな違いは家族づれが多く見られたところではないでしょうか。

※席にてQRコードより注文、決済

私たちは外国語学部、中国語学科、上海現代史を学ぶ孫安石ゼミナルです。私たち孫ゼミでは九月五日〜十日の五泊六日で中国浙江省杭州市へ合宿に行ってきました。今回の合宿では浙江旅遊職業学院の皆さんとグループワークを通して交流を図りました。初日に顔合わせ後、二日目には会社見学、三日目・四日目には各グループ(コンビ二班、ライブ販売班、カフェ班)ごとに現地へ足を運びました。私たちカフェ班は二日間で計八ヶ所のカフェへ行くことができました。その中でも特にオススメなカフェ六選を紹介いたします。今回出向いたカフェはチェーン店ではないため各カフェのこだわりについてオーナーさんに聞くことが出来ました。

Parking

こちらは過去に2021世界咖啡師大賽中国区总决赛(2021世界コーヒーバリスタ大会中国地区決勝戦)において優勝経験のあるカフェです!店内は狭めとなっており、Take outを利用するお客さんが多く見られました。このカフェ最大の特徴は世界大会で受賞したコーヒーセットを店員さんによる解説付きで頂けることではないでしょうか!



喫茶店特集

FROMHER

こちらのカフェは今回の杭州合宿を共にしてくれた浙江旅遊職業学院卒業の先輩が携わった“インスタ映え間違い無し!”などもオシャレなカフェでした!店内は白とミントカラーが基調とされており、1Fで注文・会計、2Fは予約した人のみが利用可能なVIP席となっていました。このカフェ最大の特徴は2Fで売られている陶器ではないでしょうか。いくつかのマグカップが販売されていましたがどれも一点ものとのこと!また使えば使うほど陶器の色味に変化が見られたりと一点物ならではの楽しみ方があると店員の方から説明がありました。西湖に面しておりロケーションも最高!

こんな素敵なところで沈む夕日をバックに一杯のコーヒーで癒されてみませんか?
※レジにて注文、QRコード決済



ぶらり上海さんぽ

東方明珠广播电视塔

著者：加瀬楓佳・山崎美優
浙江旅遊職業学院カフェ班メンバー：王池一陽・金毅・吴玥琅・徐秀兰



外滩

黄浦江に沿って1.5メートル続く外滩は、19世紀から20世紀初頭にかけて外国の租界地として発展し、現在は上海の象徴的な観光スポットです!
最寄り駅:上海地下鉄2号線、10号線「南京東路」駅

上海浦東新区に位置する高さ468メートルのテレビ塔! 明るい時間帯に見る東方明珠電塔も美しいのですが、ライトアップされた夜に見るのもまた違った景色を堪能できおススメです!
上海地下鉄2号線「陸家嘴」駅

豫園



明大に建てられた伝統的な中国庭園! 面積は2万平方メートル(日本のサッカー場約3面分)と、とても広く周辺には「豫園商域」と呼ばれる商業エリアがあり、飲食やショッピングを楽しめる観光スポットです!
最寄り駅:上海地下鉄10号線「豫園」駅



上海旅遊職業学院中
今日の上海ツアーガイド
宇田川星佳

西湖から眺める 杭州

外国語学部 中国語学科3年 近藤琉華

私たちは2024年の夏に孫ゼミ合宿で中国浙江省杭州市を訪れた。杭州市内にはひととき目立つ湖、「西湖」が存在している。この湖は2011年には西湖の文化的景観が評価されて世界遺産として登録された。

私はこの合宿で持参したカメラを通して様々な風景を見て写真に収めたが、やはり一番印象に残ったのは数日間訪れた「西湖」の風景だった。私たちが仲間と共に探索したうえで見えてきた西湖の多くの魅力や知られざる伝説。そして西湖をはじめとする杭州という町の魅力を知り、そこで出会った人々の情熱に触れあうことができた。

そして、私たちが見る先にはいつも西湖の水の色と晴天の青い空が存在していた。

決してその景色の全てを写真数枚では伝えきれないが、この煌びやかな西湖の存在を感じてもらいたい。

またこの杭州の西湖を訪れたらきっと思い出さだろう。この煌びやかな夏の思い出を。



杭州

HANG ZHOU



雪花啤酒



武林夜市での麻辣拌(マーラーバン)



美食

FOOD



点都德
(飲茶で有名な広東料理)



緑茶餐厅
(杭州市内にも店舗を多く構えるレストラン)



火鍋
(海底撈店)





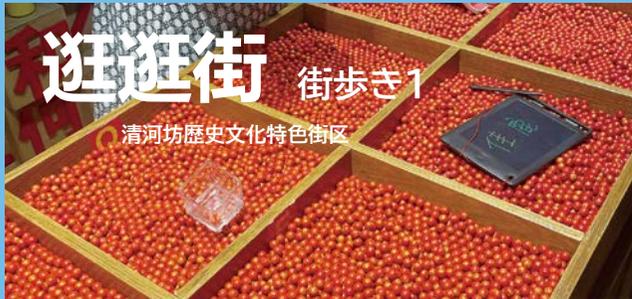
銅で造られた椅子



乾燥された梅が売られる様子



夜市のネオン看板



逛街 街歩き1

清河坊历史文化特色街区

私たちが初日から三日間宿泊したホテルの近くには「清河坊历史文化特色街区」という歴史的な街並みを感じることのできる繁華街がある。

夜になると輝きだす商店街は地元の人からも観光客からも親しまれるような雰囲気を感じた。

食べ物、お土産の一つ一つに趣があり、販売する人々は私たちを魅了させるように試食や体験を投げかけてきた。

ついつい店舗一店舗入りたくなってしまいが恐らく見切るのとはとても困難であろう。

商品だけではなく建物の一つ一つも目を奪われる造りであった。中でも印象的であった左上の写真の建物内は全ての展示物が銅でできてとても華やかで巧妙だった。



約300万円の壺



歴史的な街並み



企業訪問先

无优传媒 (無憂メディア)

JOY MEDIA

杭州はライブ販売で盛んな街としても名高い。日本でライブ販売は馴染みがないが、現在中国ではインターネット上でリアルタイムのストリーミングビデオを活用した衣服を代表とする販売市場が世界最大級である。今回は杭州に本社を構える「無憂メディア」社に特別見学させていただいた。現場の本番は夜だが、カメラ一つに向かって訴えかける様子は販売者の顧客をつかむような熱いセールスまでも感じた。

社内の最新設備や数ある衣服、見慣れない照明器具や撮影器具に圧倒された。

(右写真 ライブ販売を体験する様子→
右から 神奈川大学教授 孫安石先生
浙江旅游职业学院卒業生 吳凱凱さん)



公司参观 COMPANY



報告会・交流

浙江旅游职业学院 日语专业
(浙江觀光職業學院 日本語専攻の学生との交流)

最終日私たちは各班で日本組、中国組に分かれて調査報告とトランプやUNOなどのカードゲームでの交流をして楽しいひと時を過ごした。コンビニ班、カフェ班、ライブ販売班の3つのグループに分かれて調査を行った私たちの特色が発表から伝わってきた。この濃い数日を通して感じたことは、たとえ国籍が違うとしても、私たちの言語の壁には隔たりは全くなかったのだ。私たちは彼らのおかげで濃厚な6日間を過ごすことができた。



左から 刘倩さん(1年生)
奚佳英さん(同様)
朱喻杨くん(3年生)



校内見学

浙江旅游职业学院校内

こちらの大学には約13000人の学生、約600人の教員12の教育ユニット、26の観光関連専攻があり、中にはホテル管理学院、旅行サービスや料理、航空乗務員などと幅広い観光専攻がある。

校内を散策する上で神奈川大学とは全く違う広い分野で専門的に学べる様子を伺えた。

特に印象に残った場所は上部の四枚の写真だ。広い校内には高級ワインがそろったワインセラーの部屋、ライブ販売の撮影現場の教室やバーカウンターが置かれる教室、西洋料理を専門的に学ぶ学生のためのキッチンまでもあった。

私たちにとって真新しいこの空間は同じぐらいの年齢の学生たちが学んでは考え難いほどの設備のクオリティであった。思わず転校したくなるような豊富な学びを感じた。

→日本文化体験館の入り口



美丽的夜景 (美しい夜景)

私たちが杭州で目にした夜景は全てが記憶に残るものだった。

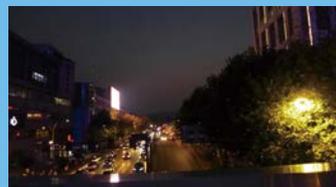
中でも鮮明に残る夜景は**钱塘江夜遊の夜景**である。

钱塘江を挟んで見える杭州の数々の高層ビルは毎日ライトアップされて音楽と共に光のショーを観覧することが可能だ。

一日の終わりにたどり着いて見たこの景色は、西湖で歩き回って溜まった疲労さえも完全に吹き飛ばした。

右下の写真の男性はマイクを片手に持ち人々をかき分けて歌声を響かせていた。馴染みない私たちをとっても愉快地し、より一層記憶に刻まれる癒しの夜にさせてくれた。

この2024年の夏の終わりに見た杭州の景色、そして出会った仲間は鮮明に私たちの心に残るであろう。



孫ゼミ杭州合宿とコンビニ参観記

人文学研究科 中国語文化専攻博士前期1年 吳逸楓

今年9月5日から9月10日まで、中国語学部と一緒に杭州で合宿をした。以前の合宿と違って、今回の合宿は日中両方で共に行い、中国の「浙江旅遊職業学院」の先生と学生たちも参加した。初日は皆さん杭州で現地集合して、中国西北風の火鍋を食べた。夜の7時に泊まっていたホテルの地下一層の会議室で説明会を行った。



ホテル地下一層の会議室で説明会が行われる場面

説明会が終わった後、昔中国南宋時期の都城の中軸線であった「南宋御街」という非常に賑やかな街道で自由散策し、色んな杭州地元の食べ物を見つけた。「南宋御街」は自分が住んでいる22時以降行人が少なくなる静かな中央区と違って、夜12時までずっと賑わっていた。

翌日、「无忧传媒」というライブ配信を主業とする会社に見学に行って、会社内部の施設を見学

し、現在の中国で流行っている「ライブ販売」というネット販売方式に関することをスタッフから聞いて、ライブ販売業をより深く理解するようになった。三日目には、初日の説明会で決めたチームメンバーと一緒に、杭州のコン

ビニを視察に行った。日本のコンビニにはないものが、中国では見られた。一つ目は、完全にセルフサービスのファミリーマートの一店舗を見つけた。ここでは、一般的な商品だけではなく、おでんやフライヤーの商品もすべてセルフサービスだった。日本でもセルフレジのあるコンビニはあったが、ここまで完全にセルフ化されたコンビニは見かけないだろう。



ファミリーマートのセルフサービスのフライヤーとおでんコーナー



顔認証ができるセルフレジ



「乐美捷」店内に並べられた切った果物



「乐美捷」の看板

二つ目は、大量の果物を販売している「乐美捷」と呼ばれるチェーン店ではないコンビニを見つけた。日本には、このような大量の果物を主力とするコンビニを見つけたことがない。

三つ目は、杭州には多くのコンビニチェーンブランドがあり、セブンイレブン、ローソン、ファミリーマートだけでなく、「十足」、「左邻·右舍」、「美宜佳」といった中国国内のチェーンブランドも存在する。「美宜佳」は中国で「便利店の王」として知られている。2024年に発表された統計データによると、「美宜佳」は中国に33848

べた。杭州の夜市は日本のと比べると、食べ物の種類が多いし、価格は安い。而も、夜市では、食事専用の食卓と椅子がたくさん設置されているので、日本のように立ち喰いする必要がない。客にとっては優れたところだろう。

四日目はまた西湖に散策に行って、遊覧船で西湖にある島を観光し、有名な観光地「三潭映月」を訪ねた。残念ながら、「三潭映月」は想像とは大きく異なるものであった。だが、四日目のラン



コンドームの販売棚



「美宜佳」の公式ウェブサイトのホームページの一部

店舗を展開している、2022年から2023年の1年間で3840店舗が増えた。

四つ目は杭州のコンビニには、コンドームの種類がすごく多い。大体15種以上あって日本のコンビニには3〜4種しかない。

夕方にコンビニ二組全体は西湖に散策に行って、夕食は西湖に近い夜市で食



広東料理の写真

チはこの旅での一番美味な食事であったと思う広東料理を食べた。事前に杭州の名物料理の「西湖醋鱼」を食べに行くかどうかを討論したが、最後は杭州で生活している中国の学生たちに「西湖醋鱼」の味は怖い」と強く説得されて、その考えを諦めた。ちなみに、中国のSNSで、このような冗談がはやっている。「杭州は美食の砂漠だ、杭州の一番美味しいものはケンタッキー、第二はマクドナルドだ」。

最終日は杭州旅游学院で校内観光し、教室施設を見学に行った。教室は日本の専門学校の教室と似てるし、色んな業務用の設備が設置されており、学生たちはこれらの設備を通じて実践的に学ぶことができる。今回の合宿の過程で、「浙江旅遊職業学院」の先生や学生たちと一緒にとても充実した楽しい時間を過ごした。

日本との違い、支払い方法の進歩

2024年孫ゼミ杭州合宿を終えて

外国語学部 中国語学科3年

柳内大靖 小熊祐希実 近藤琉華

2024年孫ゼミ杭州合宿は9/5~9/10に行われ、杭州に行った。上海浦東国際空港に着いた第一印象は、空港がとても広いということだ。電車に乗って他のターミナルに行く、日本では経験できない。空港を出ると焼け付くように暑かった。その後、バスで上海虹橋国際空港に行き、孫先生らと合流し、杭州に向かった。

杭州の街を歩いていて、まず目に入るのはバイクやスクーターの多さである。特に都市部では、その数が圧倒的であり、歩道や車道を問わず、多くのバイクが行き交っている。多くの人々がバイクを主要な移動手段として使用しており、その便利さが際立っている。バイク専用の車線も整備されていた。外を歩いていると、クラクション



バイク専用車線の写真。
左側の屋根がついているところが
バイク専用の車線だ。

の音が絶え間なく響き渡るのが印象的であった。朝でも夜でも関係なく、前に人がいると邪魔だと言わんばかりにクラクションを鳴らしていた。友人は背後からクラクションを鳴らされて驚き、携帯電話を落としてしまった。日本ではクラクション

は必要な時にしか使用しないという文化が根付いており、またそう教えられてきたため頻繁に使われることはほとんどない。そのため、中国のクラクション文化には最初は驚きを感じたが、現地では自転車のベルのようにクラクションが自然に使われているようだった。日本とのこの大きな違いが、中国の生活の特徴づける要素のひとつであると感じた。

杭州で最も印象に残った点のひとつは、支払い方法の進化である。現金やクレジットカードを使った支払いは、もはや過去のものに感じられる



自動販売機の顔認証



浙江旅遊職業学院食堂の顔認証

ほど、スマホを利用した決済が広く普及している。特に、顔認証による支払いは驚くべき進歩であり、未来の技術を体験しているかのような感覚であった。最初に驚いたのは西湖の近くにあった自動販売機だ。商品を選び、顔認証を済ませるとすぐに商品が出てきた。

さらに、今回、浙江旅遊職業学院の学生らと交流したのだが、浙江旅遊職業学院の食堂でも、スマホを使わずに顔をスキャンするだけで商品を購入できるシステムが導入されており、その便利さに驚かされた。支払いの際に財布を探さなければならないどころか、スマホすら取り出さなくて良いという体験は、これまでの常識を覆すものであった。私は1日目に財布を使わなかったことを受けて、2日目以降は財布をホテルに置いていくようになった。日本でもキャッシュレス決済が徐々に広がっているものの、中国のように顔認証まで導入されるにはまだ時間がかかりそうである。今後日本でも普及する日が来るかもしれない。

中国での生活を観察していると、日本に比べて「譲り合い」の文化があまり見られなと感じた。特に、公共交通機関や飛行機内での出来事が印象に残っている。例えば、電車のドアが開く際、先に降りる人を待たずに乗り込む人が多かったり、中国に到着した飛行機を降りる際、列を開けてくれる人がいなかったりと、それぞれが自分の順番を優先して行動しているようである。この点で、日本との違いを感じた。

日本では、飛行機から降りる際、前の人の列を開けてあげる光景がよく見られる。そして、お辞儀をする。また、電車でも他の人を先に通すという譲り合いの精神が日常的に根付いており、それが生活全体の安心感や快適さに繋がっていると感じた。こうした譲り合いの精神は、日本人が無意識に行っていることが多いが、中国での体験を通じてそのありがたさを改めて実感することができた。



夜市の飲食店街



西湖の夕暮れ

をとりて夜市へ向かった。西湖の有名な魚料理を食べる案も上がったが、あまり美味しくないといううわさを聞いたため泣く泣く断念した。夜市は中国全土のさまざまな料理店が立ち並び、休日ということもあってか非常ににぎわっていた。私たちはそれぞれ麻辣拌やワンタン麺など好きな料理を食べた。

二度目に西湖を訪れた際は、船に乗り西湖の中央に浮かぶ「三潭印月」を見に行った。三潭印月は上空から見ると「田」の字型の島になっていて、湖の中に島があり、さらにその島の中に湖があるという特徴的な地形をしている。カヌーのような手漕ぎの小さな船も貸し出されていたが、私たちはエンジンで動く大きな船に乗り三潭印月へ渡った。島は風が吹き抜けており、西湖沿岸に比べ涼しさを感じ過ぎやすかった。三潭印月といえは、湖面に浮かぶ三つの石燈籠が有名であるが、石燈籠同士の距離が非常に離れており、一つの画角に収めることは非常に困難であった。

三潭印月を後にした私たちは、昼食をとりて点都徳（湖濱銀泰 in 77 店）へ向かった。点都徳は広州料理



コンピニ班の仲間たち

を提供している店で、杭州にいなからも広州料理を味わえる興味深い機会となった。今回のゼミ合宿を通して、異なる文化や生活スタイルに触れ、その違いを体感することができた。今回初めて中国に行ったが、交通事情やテクノロジーの進化、日常生活の中での人々の行動など、日本と中国の違いを少し理解し、ま

た日本の良さを再認識する良い機会にもなった。コンピニ班としてのゼミ活動に加え、杭州の最も有名な観光名所である西湖を数日間にわたり堪能でき、非常に有意義な合宿期間を過ごすことが出来た。また、浙江旅遊職業学院の学生と交流でき、合宿行つてよかったと感じた。それは、中国の人と交流できただけでなく、かけがえのない友人に出会えたからである。



点都徳での食事

ライブ販売と中国経済

2024年9月の中国・杭州ゼミ合宿で感じたこと

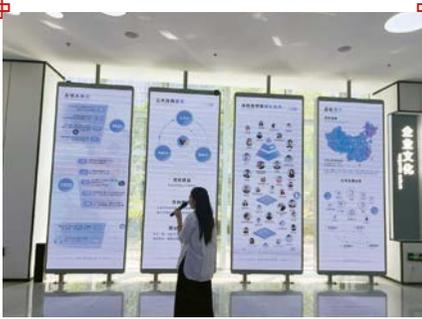
外国語学部 中国語学科3年 劉宇舒

2024年9月5日から10日の5日間、ライブ販売をテーマに、杭州のゼミ合宿が実施された。ゼミ合宿はコロナ禍が始まった2019年以降実に5年ぶりとなる。

9月6日は「無憂伝媒」(無憂メディア)を訪ねた。「無憂伝媒」はデジタル・マーケティングとメディア・コミュニケーションに特化した杭州を拠点とする会社であるが、中国国内でも知名度は高く、コンテンツ制作、ソーシャル・メディアの運営、各種商品のブランド戦略を企画するなど、さまざまな分野に亘って営業活動を展開して

いるという。「無憂伝媒」の会社説明によれば、「無憂伝媒」は、各種のデジタル・データを分析し、市場調査を行い、顧客の具体的なニーズに応じた個別のマーケティング戦略を策定することもできる、という。

中国のライブ配信と販売業界はとくにコロナ禍を挟み、急成長し、その市場規模は2019年には4300億元であったものが、僅か2年後の2021年には、そのほぼ5倍の19950億元にまで成長することとなった。中でも杭州はライブ販売会社の大手であるアリババが本社を構えて



「無憂伝媒」の会社説明の様子



ライブ配信のルーム



「無憂伝媒」の休憩スペース



(出典: JETRO、<https://www.jetro.go.jp/biz/areareports/2021/3249f9cbffcf017f.html>を参照)

いて、中国でも特にライブ販売が発展している地域だと言える。

中国国内で日常的に使われているTIKTOKや「小紅書」などのライブ販売のアプリは、昼夜問わずほぼ24時間体制で、オリジナルティあふれるライブ販売放送が行われていて、様々な商品が紹介されている。今回の杭州訪問では、ライブ販売を発信する配信者たちが、視聴者数やお金を稼ぐためにどのような努力をしているか、についての「生の声」を聞ける貴重なチャンスであった。

頭閣臨江大廈のライブ配信センターの中に、複

数の会社がスタジオを借りてライブ配信を行なっている。

例えば、「頭閣臨江大廈」のライブ配信センターに訪れたときには、表面上には右肩上がりのようにみえる現在のライブ配信業界も、実は、大変厳しい試練に直面していることがわかった。すなわち、本来はライブ配信を行い大小の商店によってすべて埋め尽くされるべき店の殆どは、空室が多く、片手で数えられるほどの会社しか運営していないという物寂しい現状があった。

その中でINSUNの担当者インタビューをするのができ、今のライブ販売業界の厳しい現状を生で聞くことができた。その話によれば、特に女性服の分野では、ライブ販売で販売された商品の返品率が90%以上に達している、という話を聞いて、とても驚いた。返品率が90%に達することになれば、これは商業者にとっては大きなマイナスであることは言うまでもない。ライブ販売の高



「頭閣臨江大廈」のライブ配信センター



ライブ配信の流れ

INSUNのライブ配信ルーム

い返品率は、いま多くのライブ販売者が抱える最大の問題である、という。また、いま中国で流行している「謎ボックス」の配信を行っている「守輝文化会社」（所在は、浙江国際映像中心）の責任者である韓延輝さんへのインタビューも実施することができた。韓さんの話によれば、「謎ボックス」の返品率は、10%未満であるということであった。女性服の返品率が90%に達していることに比べたら、返品率が非常に低いことに驚い

また、いま中国で流行している「謎ボックス」の配信を行っている「守輝文化会社」（所在は、浙江国際映像中心）の責任者である韓延輝さんへのインタビューも実施することができた。韓さんの話によれば、「謎ボックス」の返品率は、10%未満であるということであった。女性服の返品率が90%に達していることに比べたら、返品率が非常に低いことに驚い



「守輝文化会社」のロゴ



ライブ配信データを分析する運営者

た。「謎ボックス」の前身は、日本でも非常に人気のある「ガチャガチャ」だ。しかし、中国では中身がみえる「ガチャガチャ」はあまり反響が良くはなく、中国市場に合わせて中身が見えない「謎ボックス」に変えたことで多くの人々から歓迎された、という。要は、「謎ボックス」を開封するまで、何が出るかわからないという要素が加わり、中国人の購買意欲を強く促進することができ、いまのような人気を得ることができた、という。中国のライブ配信業界は、コロナ禍の期間中に大いに栄えたが、現在は、市場競争が非常に激し



ライブ配信の準備作業



注文手続きの説明

く、多くの配信者は、視聴者の流出と購入率の低下（返品率の増加）という二重の課題に直面している。ライブ販売を運用する大小の会社は、高い返品率の中で、消費者の高い品質の要求、新たな販売戦略を調整せざるを得なくなっている。その中には、AI技術を導入して、数百台のデバイスを同時に利用してライブ配信を行う会社もあり、人件費を大幅に削減し、商品価格を引き下げることと成功し、新たな利益を創出している会社もある。

このような成功モデルは、ライブ販売の効率を高め、安い価格を望む消費者の求めに応えたことにはなるかも知れない。しかし、一方でこの変化は、雇用の面においては良くない影響を及ぼしていることも否定できない。すなわち、自動化とスマート化の推進に伴い、従来の伝統的な職業を担ってきた熟練労働者の地位がますます奪われ、



YEHEXI店の発送待ち状態



CC+店の梱包作業



四季青の発送待ち荷物

彼ら彼女らの雇用機会が減少している。したがって、ライブ販売の技術の進歩は、まさに諸刃の剣であり、企業は高い利益を獲得すると共に、労働者の雇用機会を減少させている。

杭州の「四季青」という街は、中国の中では全国的に有名な服装卸売市場で、中国服装第一街と言える。話によれば、早朝の4、5時が一番忙しい時間帯であるという。私たちが訪問して歩いた「四季青」の街頭は、女装、男装、童装、靴やバッグのエリアにそれぞれ分かれていて、女装エリアが最大の規模を占めており、市場全体においても重要な影響力があることがわかる。

「四季青」に足を踏み入れると販売された荷物を梱包している店員や、発送を待つ大量の梱包済み商品が至る所に見られた。「四季青」は多くの新しいスタイルの服を集め、豊富な選択肢を提供し、中国国内はもちろん、世界各地からの消費者

を惹きつけていることを肌で感じることができた。

私は、今回のゼミ活動と実地見学を通じて、従来のライブ配信業界について抱いていた私の理解は表面的な華やかさであり、実は、その裏では多くの困難に直面していることを直接、見聞することができた。しかし、AIの技術を駆使する杭州のライブ販売の発展に驚いたのも事実である。AIを活用したライブ配信の技術は、杭州に来る前には全く知らないものであった。しかし、技術の進展がこれほど急速である一方で、その技術の発展によって労働者の雇用率が大幅に低下することとなれば、彼らの生活はますます困難になってしまう。このような状況をどう克服して行くのか。ライブ配信業界、そして、中国経済が直面した大きな課題であると言わなければならない。